

中国化学会(旧大塚漢文学会)略史

承前「漢文学会略史」(中国文化—研究と教育—)

一九九二、(漢文学会会報 第五〇号所収)

一九九一年(平成三年)

六月二九日 平成三年度大塚漢文学会大会(於湯島聖堂)。井川義次「イエズス会士によるヨーロッパへの『四書』の紹介について」、菅本大二「分」の思想について、阿川修三「周予同の經学観について」、相原茂「也」の位置、坂口三樹「宮体詩の性格について」、松村茂樹「漸江と徽派版画の關係について」、宮内保「神韻派と絵画」、青木五郎「伍子胥列伝」掘楚平王墓、出其戸、鞭之三百」について。漢文教育シンポジウム「『史記』の指導をめぐって」、中田伸一、後藤雄幸。平成四、五年度委員長水沢利忠。

九月二一日 月例会(於校蔭会館)。村田和弘「在上海大学現状報告」、中原尚道「文字の規格化について」。

十二月七日 月例会(於湯島聖堂)。白沢寛子「儒林外史」における作者の言語意識」、三浦勝利「中国における

学術書出版動向」。

一九九二年(平成四年)

三月七日 月例会(於湯島聖堂)。玉城要「白居易の諷諭詩」、沼口勝「陶淵明の擬古詩について」。

六月二〇日 (中国文化—研究と教育—) 一九九二、(漢文学会会報) 第五〇号発行。五〇号記念号。編輯者、高橋均、謡口明、大上正美、安藤信廣、小谷一郎、白井啓介(以下五一号まで同じ)。印刷所、株式会社共立印刷所(以下同じ)。「漢文学会略史付資料」漢文学会々報総目次(第一号〜第49号)掲載される。

同日 平成四年度大塚漢文学会大会(於東京都教職員互助組合教育会館)。井川義次「明代河東の学の一面」、菅本大二「漢代における「春秋の義」と「荀子」」、松村茂樹「書法家・傅山の葛藤」、佐藤一樹「文人から知識人へ」、村田和弘「二拍」物語のモチーフの流れ」、加固理一郎「李商隱公用文書における駢文の文体について」、沼口勝「魏晋の文学と「焦氏易林」」、谷川英則「楊億と「武夷新集」」。漢文教育シンポジウム「『論語』の指導をめぐって」、渡辺雅之、吉原英夫、加藤章。

十二月五日 月例会(於筑波大学学校教育部)。村上之伸「閩南語の「にんじん」という語彙について」、大上正美

「方法としての〈文体〉」。

一九九三年（平成五年）

三月五日 月例会（於筑波大学学校教育部）。玉城要「白居易の閑適詩」、高橋均「論語音義と論語注」。

六月二六日 〈中国文化—研究と教育—〉一九九三、〈漢文学会会報〉第五一号発行。

同日 平成五年度大塚漢文学会大会（於湯島聖堂）。小林健一「毛序における風化と風刺について」、玉城要「白氏長慶集」四分類消滅の原因について、加藤敏「元徳秀と元結について」、松村茂樹「鄭振鐸と王雲五」、白井啓介「曹禺戯曲の文学表現」、稀代麻也子「袁粲「妙徳先生伝」をめぐって」、沼口勝「陶淵明「乞食」の詩より「桃花源記」へ」、上田武「陶淵明の若き友人たち」、志賀一朗「湛甘泉研究の動向について」。漢文教育シンポジウム「『唐詩』の指導をめぐって」、島田弥生、柚木利博、小出實暎。平成六、七年度委員長伊藤虎丸。

十月九日 月例会（於筑波大学学校教育部）。加固理一郎「李商隱「太尉衛公会昌一品集序」について」、佐藤一樹「近代中国研究」。

十二月一日 月例会（於筑波大学学校教育部）。阿川修三「井川義次氏の「薛瑄の「復生」思想—明代朱子学派の

一面」について」、大上正美「陶淵明論はどのようにして可能か」、志村規矩夫「中国共産党中央委員会後の展望」。

一九九四年（平成六年）

三月五日 月例会（於筑波大学学校教育部）。佐藤一樹「白井啓介氏「中国映画の失われた系譜」について」、安立典世「陶淵明の死生超越への試み」、北村良和「二十二史劄記」における「王殺し」の言及」。

四月二三日 月例会（於筑波大学学校教育部）。講演、陳平原「章炳麟と胡適の経学・子学の方法に関する論争をめぐって」。

六月二五日 〈中国文化—研究と教育—〉一九九四、〈漢文学会会報〉第五二号発行。編輯者、高橋均、大上正美、安藤信廣、小谷一郎、白井啓介、小松建男（以下五三号まで同じ）。

同日 平成六年度大塚漢文学会大会（於湯島聖堂）。井川義次「張居正の「誠」の思想」、廣野行雄「近作「恋愛の季節」における王蒙」、加固理一郎「温庭筠の駢文について」、宮内保「孟浩然の山水詩」、高橋均「論語音義」について」、望月真澄「洪武正韻」依拠方言」、漢文教育シンポジウム「史記」へのこだわり」、渡辺雅之、堀池信夫、吉原英夫、加藤敏、青木五郎、謡口明。

十二月三日 月例会（於筑波大学学校教育部）。金谷順子「数詞十動量詞」が状語になる場合についての「考察」、西岡晴彦「小松建男氏論文」「范鯁兒雙鏡重圓」の創作方法」について。

一九九五年（平成七年）

三月十日 月例会（於筑波大学学校教育部）。安藤信廣「オランダにおける東アジア資料」、沼口勝「安立典世氏論文」「陶淵明『自祭文』へ楽天委分 以至百年考」について。

五月二〇日 月例会（於筑波大学学校教育部）。小松建男「村田和弘氏論文」「狐妖譚の変容と継承」について、高橋由利子「段玉裁の『汲古閣説文訂』について」。

六月二四日 「中国文化―研究と教育―」一九九五、へ漢文学会会報第五三号発行。

同日 平成七年度大塚漢文学会大会（於湯島聖堂）。稀代麻也子「沈約の「八詠詩」について」、玉城要「姚合の作品傾向について」、安藤好恵「同時進行する動作の表現型について」、村上之伸「泉州方言における文言音」、松村茂樹「呉昌碩と六三園」、小谷一郎「日中近代文学交流の一断面」、間嶋潤一「尚書中候」における殷湯の受命神話について。漢文教育シンポジウム「唐詩」、高木

重俊、安藤信広、渡辺雅之、向嶋成美。平成八、九年度委員長伊藤虎丸。

九月二三日 月例会（於筑波大学学校教育部）。舟部淑子「馬致遠の散曲について」、向嶋成美「安藤信広氏論文」「謝靈運の『山居賦』について」。

十二月九日 月例会（於校蔭会館）。井沢明肖「元好問詩における人物形象」、広野行雄「陸文夫の「美食家」を読む」。

一九九六年（平成八年）

三月一六日 月例会（於筑波大学学校教育部）。肖波「試析蘇洵的『名二子説』」、堀池信夫「佐藤一樹氏論文」「漢文における近代アイデンティティの模索―漢文科をめぐる明治・大正の論議―」について。

六月二九日 「中国文化―研究と教育―」一九九六、へ漢文学会会報第五四号発行。編輯者代表、高橋均（以下五五号まで同じ）。

同日 平成八年度大塚漢文学会大会（於湯島聖堂）。松崎哲之「浙東史学の展開」、菅本大二「天の統治」、加固理一郎「李商隱と牛李の党争について」、加藤敏「元結の「春陵行」と「賊退示官吏」について」、谷口匡「朱彝尊の「齋中読書十二首」について」、甲斐勝二「阮籍の

形象について、沼口勝「陶淵明「飲酒」詩考」、漢文教育シンポジウム「漢文教育は可能か?」、北村良和、佐藤一樹、堀池信夫、上田武、細谷美代子。

十一月一六日 月例会（於筑波大学学校教育部）。渡辺大「黄老帛書の成立について」、佐々木勲人「動詞句直前に現れる「給」の文法機能」。

一九九七年（平成九年）

五月三一日 月例会（於筑波大学学校教育部）。安藤信廣「法政大学蔵「正岡子規文庫」の漢籍について」。

六月二八日 へ中国文化―研究と教育―一九九七、へ漢文学会会報第五号発行。

同日 平成九年度大塚漢文学会大会（於湯島聖堂）。辛賢「帛書周易」「易伝」について、渡辺大「賢」からみた馬王堆帛書「経法」「十六経」「称」「道原」の成立、村上之伸「海南閩語の「訓読」と「文白異読」について」、杉田泰史「左伝」に見られるいくつかの他動詞アスペクト現象」、細谷美代子「史伝教材の指導」、鈴木嘉弘「論語の学習と自己学習力育成」。漢文教育シンポジウム「陶淵明「飲酒」詩をめぐる」、上田武、安立典世、堀池信夫、大上正美、沼口勝。総会の議事(二)として「会則変更について」の審議、委員会案承認。中国化学会発

足。平成九、十年年度会長高橋均。

十一月二九日 月例会（於筑波大学学校教育部）。松崎哲之「万斯同の諦裕説について」、菅野禮行「菅原道真の遺言状」。

一九九八年（平成十年）

三月六日 月例会（於筑波大学学校教育部）。樋口泰裕「庚信「擬連珠」試論」。

五月一六日 月例会（於筑波大学学校教育部）。安藤信廣「陶淵明の「飲酒二十首」について」、大上正美「阮籍と伏羲の往返書簡」。

六月二〇日 へ中国文化―研究と教育―第五六号発行。編輯者、編集委員会 代表大上正美（以下同じ）。

同日 平成十年度中国化学会大会（於青山学院大学）。大橋賢一「李益の文学」、高橋朱子「韓愈の「情」と李翱の「情」について」、松村茂樹「海上派の学画法について」、佐藤一樹「社会ダーヴィニズムは中国社会に衝撃を与えたか」、村上之伸「漢語方言における文言層の形成について」、伊原大策「得罪他」（彼の機嫌を損ねる）の語法」。シンポジウム「中国知識人像―伝統と変革」、上田武、青木五郎、小谷一郎、佐治俊彦。

十二月五日 月例会（於筑波大学学校教育部）。井沢明尚

「元好問樂府詩の様式について」、高橋均「定州漢墓竹簡
『論語』をめぐるいくつかの問題」。

一九九九年(平成十一年)

三月六日 月例会(於筑波大学学校教育部)。谷川英則
「一句三言の文飾について」。

五月一日 月例会(於筑波大学学校教育部)。木村淳

「『故事新編』の主題について」。

六月二六日 へ中国文化—研究と教育—第五七号発行。

同日 平成十一年度中国化学会大会(於東京女子
大学)。関浩志「版本から見た歌劇『白毛女』の変遷」、
村上之伸「『厦英大辞典』に見られる閩南語下位方言の分
析」、辛賢「『太玄』の「首」と「贊」について」、北村良
和「死了以後再説」の発想について」、加固理一郎「李商
隱の軀機」、佐々木良「孔子と顔回の対話」。シンポジウム
「中国映画研究の「いま」、白井啓介、大場正敏、刈間文
俊、館けさみ。平成十一、十二年度会長高橋均。

九月一八日 月例会(於桜蔭会館)。樋口泰裕「北魏孝
文帝「弔比干墓文」試論」、望月眞澄「慧琳經音義所拠之
字書説」。

十二月一八日 月例会(於筑波大学学校教育部)。石田志
穂「肉体から道へ」、谷口真由実「杜甫における房琯事件

の意味」。

二〇〇〇年(平成十二年)

四月二九日 月例会(於筑波大学学校教育部)。大橋賢一
「盧綸の処世観と文学」、上田武「陶淵明の享年についての
二つの新説」。

六月二四日 へ中国文化—研究と教育—第五八号発行。

同日 平成十二年度中国化学会大会(於筑波大
学)。速水愛子「魚玄機詩の表現について」、後藤英明
「順宗実録」についての一考察」、荒尾敏雄「杜光庭の
『道教靈驗記』に於ける応報観について」、劉勳寧「『中原
音韻』の「中原」について」、大久保隆郎「古今と夏夷」。
シンポジウム「中国と西域—異文化は中国に何を伝えた
か」、安藤信廣、加藤敏、大塚秀明、堀池信夫。

九月三〇日 月例会(於大妻女子大学)。高橋未来「杜牧
『昔事文皇帝三十二韻』について」、清水智恵「国語教育の
変遷とこれからの漢文教育」

十二月九日 月例会(於筑波大学学校教育部)。石村広
「結果補語と方向補語の接点」、長原美奈子「高校の漢文教
室より」。

二〇〇一年(平成十三年)

三月一日 月例会(於大妻女子大学)。加藤和江「韓愈

の文章と作文教育」。

四月二十八日 月例会（於筑波大学学校教育部）。松村茂樹「吳昌碩と日本人士の交流について」、佐藤一樹「『生命力』としての中国」。

六月二三日 「中国文化—研究と教育—」第五九号発行。